

大館北秋田地域林業成長産業化協議会
再造林推進部会

協議記録

日時：令和2年2月18日（火）10：30～12：00

会場：北秋田市役所 第2庁舎1階 第2会議室

大館北秋田地域林業成長産業化協議会 再造林部会 出席者名簿（令和2年2月18日）

大館北秋田地域林業成長産業化協議会会員

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
1	森林組合	大館北秋田森林組合	森林整備課長	阿部 昌宏	
2	素材生産者	(有)阿部林業	(欠席)		
3		(有)畠山造林	代表取締役	佐藤 四郎	
4		(有)花田造材部	(欠席)		
5		(有)伊東農園	部長	佐藤 保	部会長
6		(有)新林林業	総括部長	赤石 勝正	
7		(有)山田造材部	総務担当	菊地 和俊	
8		山一林業(株)	(欠席)		
9		石上木材	(欠席)		
10		小林林業	(欠席)		
11		(有)佐栄林業	(欠席)		
12		(有)中田工業	(欠席)		
13		(株)石川組	代表取締役社長	島崎 祐男	副部会長
14		苗木生産者	秋田県山林種苗協同組合北秋田支部	(欠席)	
15	農事組合法人上仏社営農組合		(欠席)		
28	木材流通事業者	物林(株)	住環境システム部長	田口 慎二	
			国産材営業部	関口 祐之	
			プロジェクトマネージャー	齊藤 政子	
30	大館市	大館市	農林課農林整備係長	小棚木 信晴	
			農林課農林整備係主任	岩渕 裕太	
			農林課農林整備係主任主事	千葉 泰生	
31	市村	北秋田市	農林課林業振興係副主幹	藤田 学	
			農林課林業振興係主事	杉渕 亜希	
			農林課林業振興係主事	長岐 英泰	
32	上小阿仁村	上小阿仁村	産業課林務商工班主査	田村 勇輝	
			産業課林務商工班主事	市川 淳也	

大館北秋田地域林業成長産業化協議会委託事業者

番号	名称	役職	氏名	備考
1	森林資源バイオエコノミー推進機構株式会社	(欠席)		

大館北秋田地域林業成長産業化協議会オブザーバー

番号	区分	所属	役職	氏名	備考
4	行政機関	秋田県北秋田地域振興局	森づくり推進課主査	小笠原 信幸	

再造林推進部会では、ロードマップの進捗状況を確認し、事業の到達点の設定を行うため、協議を行いました。

※再造林推進部会…「再造林部会」と表記。

【協議内容】

(1) ロードマップの確認について

＜オブザーバー（振興局）＞

・配布している資料だが、県から各市村及びアドバイザーに依頼し取り纏めたもの。記載している到達点等について議論していただきたい。

○主伐・再造林一貫作業システム推進プロジェクト

【1. 先進地調査】

＜事務局（大館市）＞

・先進地視察研修について、各部会長、事務局でノースジャパン素材流通協同組合に視察を実施し、再造林基金に関する取り組みの紹介を受けた。素材生産業者であれば素材生産量に応じて積み立て、賛同していただいた加工業者等の川中・川下の業者も積み立てしている。

＜再造林部会（部会長）＞

・秋田県では市町村によって嵩上げがあつたりなかったりしている。秋田県の再造林率は2割程度。現在は良いが、今後資源量が減ることによって、林業事業者が自ら首を絞めている状態。条例等で規制し再造林を行わないと資源量は回復しない。
・苗木を確保しないと伐採許可を出さない、とかの取り組みが必要でないか。

＜再造林部会（副部会長）＞

・再造林を進めたいのに誰も手をつけない。放置森林の地拵えの補助が手厚ければ再造林が進むのでは。

＜事務局（北秋田市）＞

・北秋田市では下刈り、枝打ち、除伐に対し、国庫補助事業の対象とならない自力施行に補助する制度を来年度予算要求している。

【2. 施業の研究】

＜再造林部会（副部会長）＞

・一貫作業システムだが、伐採して植付けまでとしているが、保育まで含めるべきではないかと感じる。

＜事務局（大館市）＞

・到達点として、従来の一貫作業システムに加え、保育を含めた仕組みづくりをしていくということで検討したい。

＜事務局（大館市）＞

・連携手段の検討だが、秋田県素材生産流通協同組合の木材クラウド研修に参加したが、この中で利用されている方はいるか。この協議会のメンバーのうち、素流協の会員でない方もいるが、使っていただきたいとのこと。

＜オブザーバー（振興局）＞

・木材クラウドは、1年後の本格運用を目指し、現在は試験的に運用している。川中のI Dもあり、活用可能である。

【3. 森林経営計画の策定促進】

＜事務局（大館市）＞

- ・大館市は意向調査を実施済みであり、経営管理権集積計画の公告を行っている。
- ・北秋田市では2月末を期限として意向調査を実施している。
- ・上小阿仁村も今年度意向調査を行う。

＜事務局（大館市）＞

・事業者としては再委託を受けるほうがよいか、または請け負うほうがよいか、よければ意見を聞かせていただきたい。

＜総務部会（部会長）＞

・発注は、基本的に非経済林に該当する森林か。その場合、大部分が切捨て間伐になるのでは。また、道路状況等、現地を確認しないとなんとも判断できない。

＜事務局（大館市）＞

・経済林であっても、再委託できない森林は市町村の管理となり、当然そういう経済林も発注する場合がある。

＜再造林部会（副部会長）＞

・昔は高品質な木材を生産するために間伐を実施してきたが、現在の方向性が変わってきた。非経済林の管理を進めるよりは路網を伸ばす方が、効果的ではないか。

【4. 高性能林業機械の検討】

＜オブザーバー（振興局）＞

・高性能機械の導入について、来年度は2件予定されているが、国の補正予算による合板材事業で申請予定であり、成長産業化事業分ではない。

【5. 再造林基金の検討】

＜再造林部会（部会長）＞

・他県では再造林を条例で定めているところもあるようだが、このような様々な情報収集をして検討していくべきでないか。現状は厳しいかもしれないが、進めていくべきである。

＜事務局（大館市）＞

・到達点としては、基金を設立することで設定したい。行政としても、業界と一体となって再造林を進めていきたいと考えている。

＜総務部会（副部会長）＞

・色々なところで再造林基金の取り組みを行っているが、基金を創設すると基金の管理に費用がかかると聞いている。

＜オブザーバー（振興局）＞

・基金では運営に費用と時間がかかるため、再造林を県の補助事業として実施している。最終的には再造林率を5割まで高めたいと考えている。これと平行しながら、基金の取り組みも検討してもらえれば。

○苗木増産プロジェクト

【1. 先進地調査】

【2. 苗木増産体制の研究】

【3. 生産施設整備の検討及び整備】

【4. 労働力の拡大】

＜事務局（大館市）＞

・先進地調査は未実施。生産施設整備は実施済み。研修会、マニュアル作成は事務局で進めていくと思うが、従事者の確保をどう進めるかが重要。現状を教えていただければ。

＜再造林部会（部会長）＞

・コンテナ苗ということで進めているが、春と秋に労働力が必要となる。逆に夏と冬はコンテナ苗に係る労働力は少なくすむが、それでは作業員は生活が出来なくなる。自社では普通苗も生産しているため、年間を通して労働力を平準化している。経営者としてコン

テナ苗だけの増産では不安。

＜再造林部会（部会員）＞

・今ではコンテナ苗の植付け作業になれてしまい、普通苗を扱える技量がある従業員が減っている。普通苗では労力的に植付け本数が下がってしまう懸念がある。植栽する場合、コンテナ苗は楽だが、苗木生産の現場では従業員を有効に使うという点では難しいかもしれない。

＜再造林部会（部会長）＞

・地域性があり、北海道などでは普通苗で植栽されている。ただ、植栽に係る従業員が確保できるかという問題はある。

＜総務部会（副部会長）＞

・普通苗とコンテナ苗の組み合わせを提唱したらどうか。

＜事務局（大館市）＞

・コンテナ苗だけでなく、夏・冬も作業できる労働環境の整備が労働力の確保につながるという方向性で考えていきたい。山側、生産者側からの取り組みを再度整理する必要がある。

～ 閉 会 ～

